

参考

～中心市街地周辺の現況～

(1) 常盤通りまちなみ景観づくりワークショップ

国道190号沿道の街なみ景観づくりの基本的な考え方

将来のまちの目標 宇都市景観計画策定に向け、国道190号沿道では、常盤通りまちなみ景観づくりワークショップを行い、具体的な景観づくりのためのコンセプトを話し合った。

グループ1

「人に優しい飽きない(商い)まち～子供からお年寄りまで～」

「周辺に住む人に優しいまちにしたい」、「人を呼び込みたい」、「車より歩く人を意識したまちにしたい」、といった指摘を考慮している。



グループ2

「おしゃれな歩道空間～座りたくなる彫刻～」

「歩道を良くしていくことは大事なこと」、「彫刻は確実に増やして欲しい」、「若者を呼び込みたい」、「休める場所が欲しい」、といった指摘がある。



グループ3

「人の集まる活気と癒しのあるまち～中心市街地公園化計画～」

「札幌大通り公園や仙台のような通りにしたい」、特に「緑を増やして公園のようにしたい」という意見が多くあった。また、「人を集めたい」、「人に優しい環境としたい」、「癒しの空間」、「公園化」といった指摘がある。



段階的な景観形成の考え方

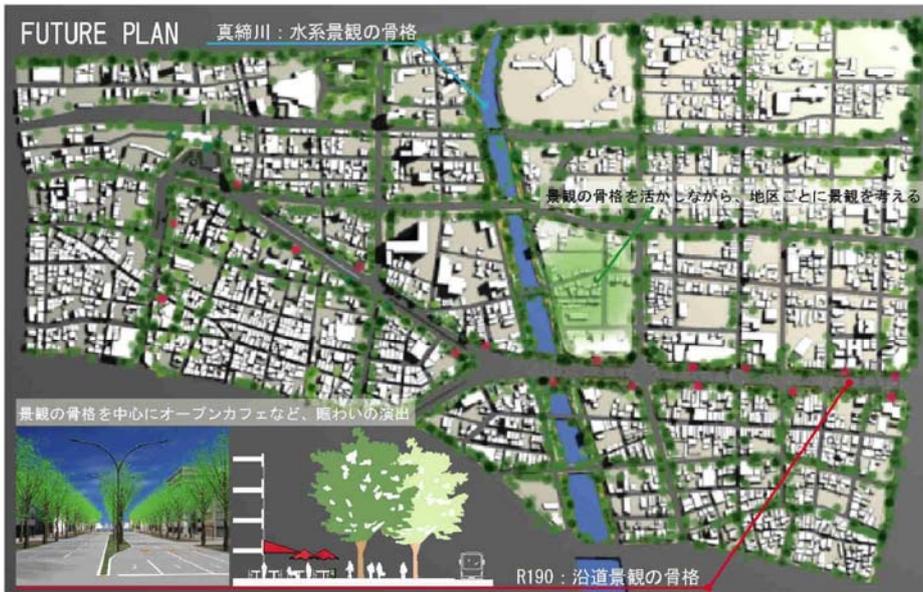
都市景観の骨格を形成する

骨格を中心に景観を地区レベルで考える

地区ごとに景観特性に考慮したまちづくりを推進する

・真綿川や常盤通りを骨格として活かしながら、小さな街区単位で景観を形成していく

景観形成フロー



宇都市の景観要素例



中央町3丁目地区



渡辺翁記念会館



山口銀行宇都支店



常盤公園

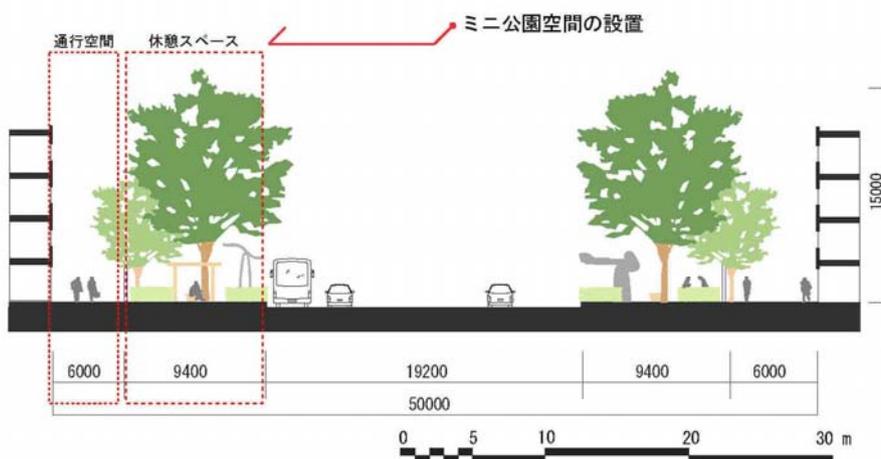


旧桶町岡崎八幡宮

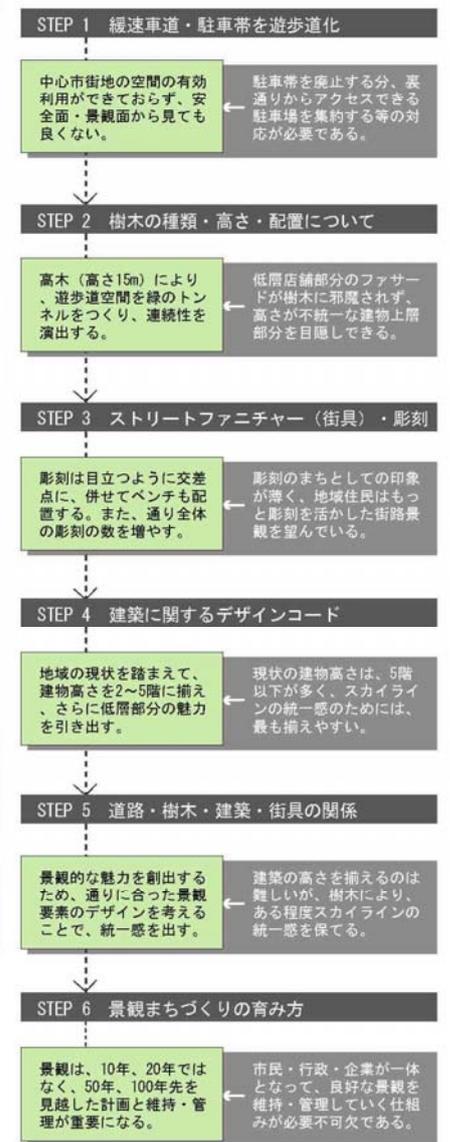
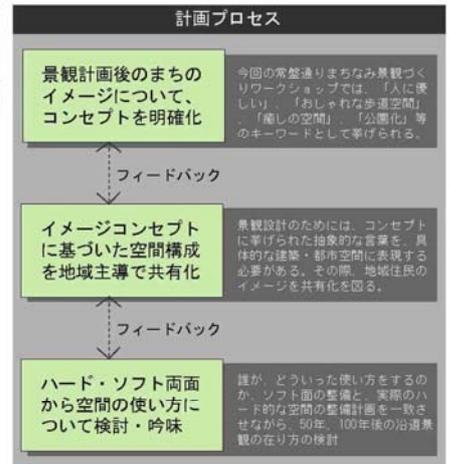
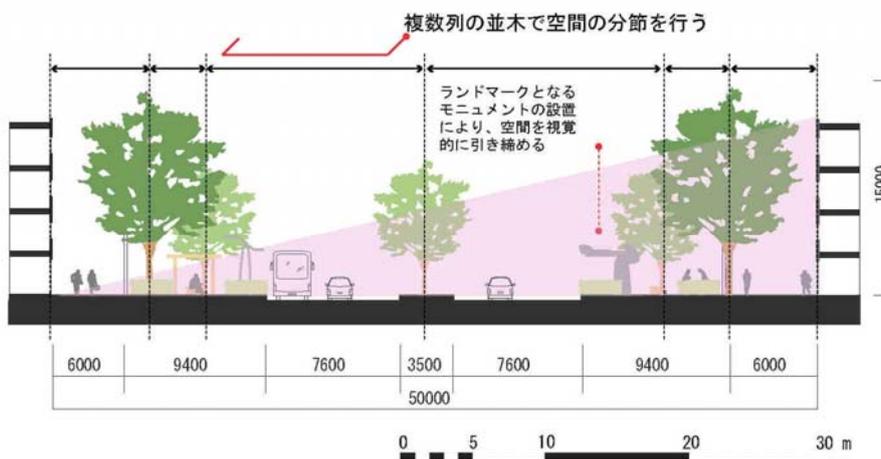
Landscape Design Plan 1



Design Variation1 休憩スペースを通りに点在させる

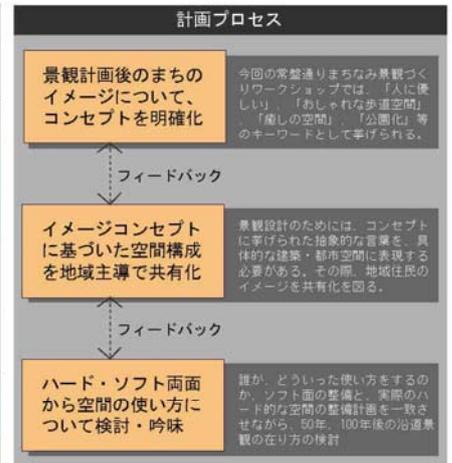


Design Variation2 ストリートファニチャー等の配置を考え、ゆとりある空間へ

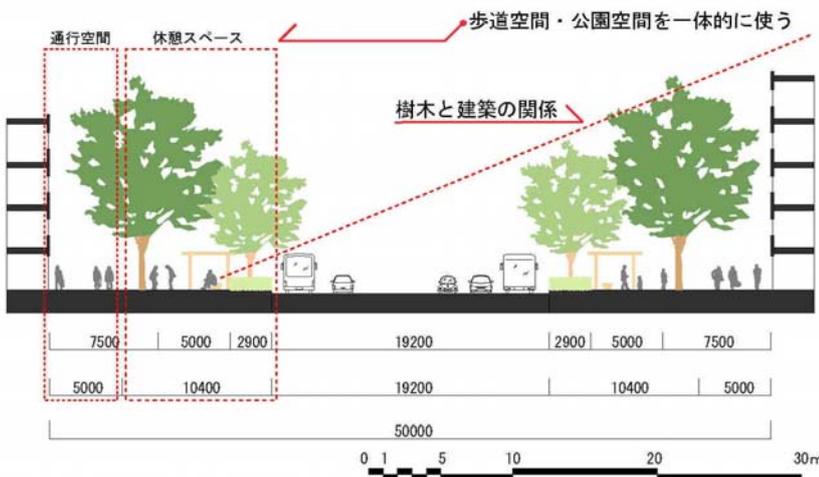


国道190号沿道の景観デザイン2 歩道公園の計画 -----> 歩道を拡幅して、公園としての機能を付加させる

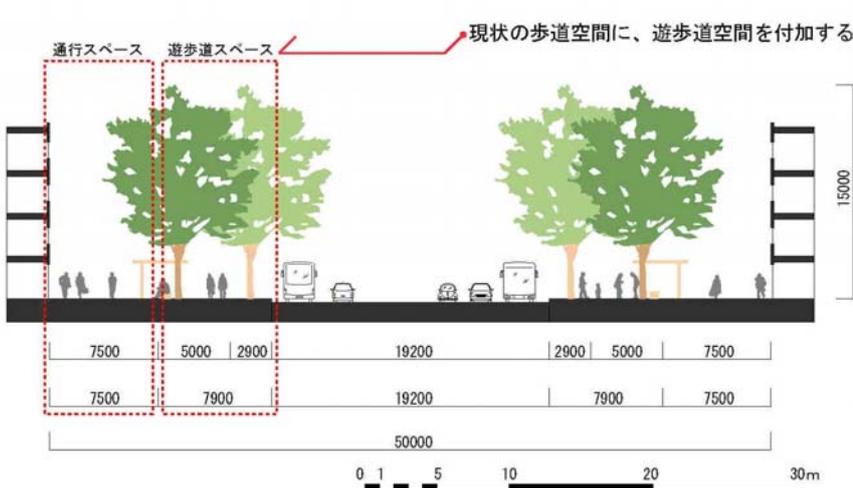
Landscape Design Plan 2



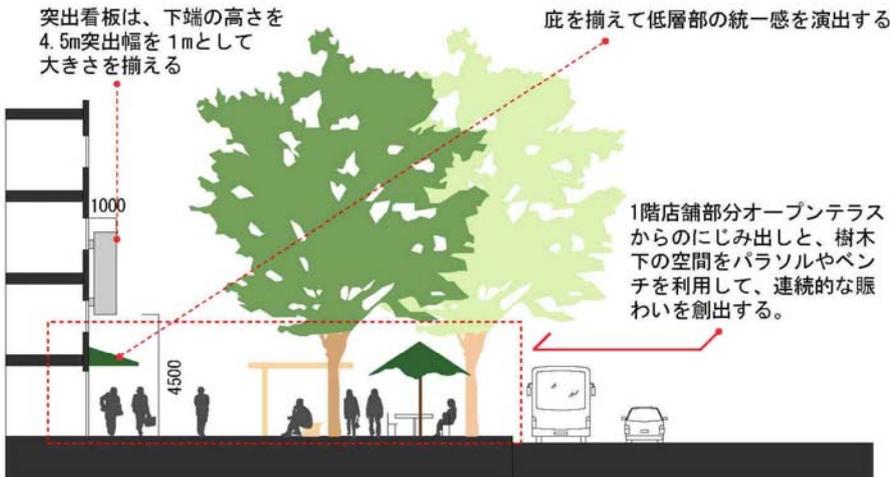
Design Variation1 歩行空間よりも、休憩スペースを充実させる



Design Variation2 現状の歩行空間を維持しながら、ゆとりある空間へ



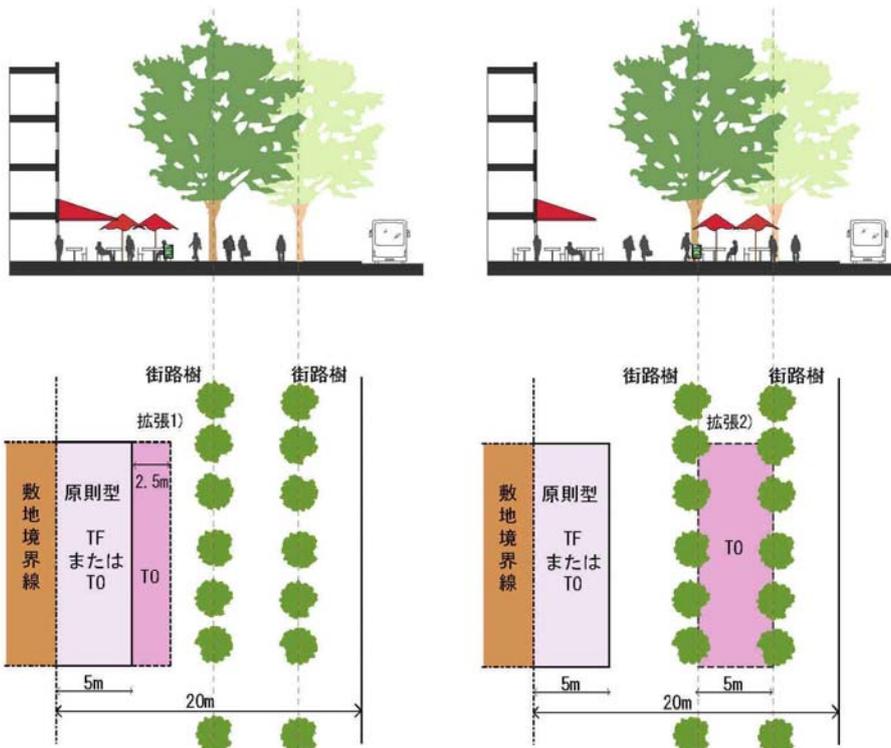
公共空間の賑わいの演出



ポートランドの歩道上カフェ



シャンゼリゼ通りのテラス拡張



TO…オープンテラス<TerrassesOuvertes>  
TF…囲い込みテラス<TerrassesFermees>



公共空間の利用

パリなどでは、オープンカフェの歴史が古く、歩道にせり出したテラスは、市民や観光客にとって欠かせない休憩・語らいの場となり、パリの都市景観を個性化し、一層魅力的なものにしている。

これに対して行政は、公共空間の利用に一定のルールと利用料金を定め、積極的に利用を進めている。この料金による収入は、市税収の1割弱を占める。

シャンゼリゼ通りでの運用

建物に隣接する5m幅のオープンテラス (TO) もしくは同様の囲い込みテラス (TF) が許可され、さらに以下のいずれかのテラス拡張が認められる。

- 1) 建物前面のテラスに隣接する2.5m幅のオープンテラス。
- 2) 建物寄り2列の街路並木間に設置する5m幅のオープンテラス。ただし歩行者通路への出入口を備え、かつ歩行者が入り込まぬようプランター等で囲う。



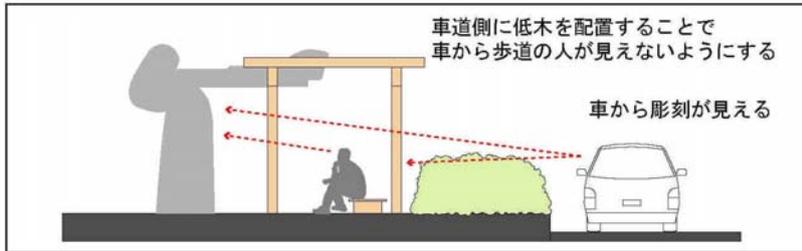
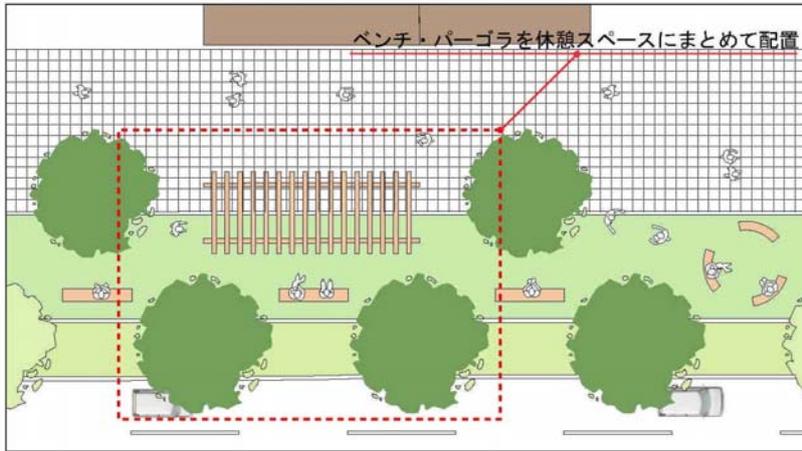
参考資料

1) 海外における都市景観形成手法、日本建築学会、1999

国道190号沿道の景観デザイン4 デザイン例集 ----->

個々の要素のデザインを工夫する

ストリートファニチャー (街具)



ストリートファニチャーの設置

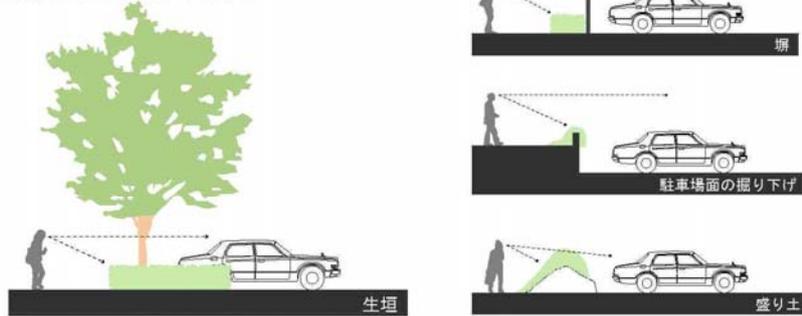
歩行空間は確保しながら、休憩空間にまとめてベンチやパーゴラを配置する。休憩空間の足元は芝生化し、高木による木陰を作るなどして、公園のようにつかわれるように工夫する。



彫刻設置に関して

落ち着いた彫刻を鑑賞できる空間に彫刻を設置し、ベンチに座った視点や車から目立つように工夫する。また、車道と歩道の休憩空間には、低木を置くことで、視線を切り、落ち着いた雰囲気を作り出す。

駐車場のデザインガイドライン



車庫・駐車場設置のガイドライン

通りの雰囲気や合うような植栽や塀のデザインを工夫することで、まちなみ景観へ配慮することができる。



建築の色彩



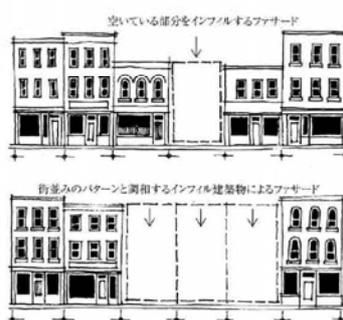
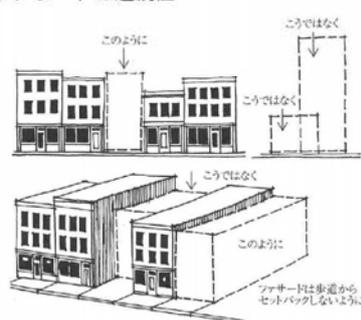
建物の色彩

常盤通りまちなみ景観づくりワークショップでは、「原色系は避けて、淡い色に統一していく」、もしくは、「赤茶系で統一していく」という提案があった。

景観を考える場合、色彩は重要な要素であり、実際に、富山県では、色彩ガイドラインを作成している。

また、淡いアースカラーで統一する案は、宇部市中央町3丁目の協定での実績もある。赤茶系も、街路樹の緑と合う。

建築ファサードの連続性



インフィル建築物の高さ・幅・通りとの関係 店先のデザインや建物の高さ、セットバック、ドアや窓のプロポーションなどは、まちなみのリズムや連続性に強い影響を与える。

成功している中心市街地のデザインは、建物の長所を活かしている。重要なことは、新しく建てて歴史的な建造物をまねることではなく、商業エリアとして、建物の高さやセットバック、材料やリズムなどが、ふさわしいかである。

海外の都市では、厳しいデザインコードにより、ふさわしいまちなみを形成している。

参考資料

2) 建築設計資料集成-地域・都市Ⅱ 設計データ編、日本建築学会、2004

(2) さまざまな景観形成に向けた取り組み



【各地区のワークショップ】



【市民タウンウォッチング】

